

## 日本特別ニーズ教育学会第 25 回研究大会 開催報告

2019 年 10 月 18 日(金)・19 日(土)・20 日(日)の 3 日間に渡りまして、長崎大学教育学部(長崎市文教町)にて日本特別ニーズ教育学会第 25 回研究大会を開催いたしました。今大会は SNE 学会 25 周年の節目の大会でありますとともに、第 8 期理事会での最後の開催ともなりました。およそ 100 名のご参加をいただきまして、心より感謝申し上げます。各プログラムの報告はニュースターにも掲載予定ですが(学会ウェブサイトにも掲載いたします)、ここでは全体を通してご報告いたします。



昨年 11 月の第 24 回研究大会(大阪体育大学)と同じく、今大会でも 10 月 18 日に前日プログラムを企画いたしました。テーマを「平和と特別ニーズ教育—長崎原爆から考える—」と題しまして、原爆という大きな「負の遺産」から平和と子どもの発達の保障のあり方を考えるべく、原爆資料館・爆心地公園・長崎市立城山小学校被爆遺構を中心に訪ね歩きました。

当日はあいにくの雨模様でしたが 10 名近くの方に

ご参加いただきまして、原爆投下の際に子どもと教師、学校がどのようにして被害を受けたのか、爆心地近くに位置していた長崎県立盲啞学校のあゆみとともに振り返りました。特に爆心地公園と城山小学校被爆遺構では、長崎平和推進協会の方に丁寧に説明を頂きながら見学して回り、犠牲となった多くの尊い命に改めて思いを馳せました。



19 日は午前中のラウンドテーブル(4 件)および若手チャレンジ研究会企画「実践研究論文の書き方を考える」に始まり、午後は前大会の課題研究Ⅱ「改めて『特別ニーズ教育』とは何か」から議論を引き継ぐ形で、SNE 学会 25 周年記念シンポジウム「特別ニーズ教育をどう創造してきたか」を開催しました。13:00~16:45 と、途中休憩もはさみつつ 3 時間 45 分の長丁場となりましたが、SNE 学会だけでなく「特別ニーズ教育学」そのものがこれまで培ってきたもの、そしてこれから先へつないていくべき課題と展望について、様々な分野・領域の参加者の方々とともに考える時間とすることができました。



ひとつとなりました。特に高橋智先生（指定討論者・第8期代表理事）からは、「当事者のニーズに合った特別ニーズ教育」の構築と、そこに立脚した「教育的なアセスメント」の展開の重要性について提起され、その際に学会が中学生や高校生・大学生、そして当事者をもっと巻き込んで議論を展開して考えあっていく重要性についても提起されました。



めて、「名誉会員記」の授与式も執り行い、本学会の創設と発展に長年に渡って取り組まれた4名の名誉会員の先生（窪島務先生、清水貞夫先生、田中良三先生、渡邊健治先生）に授与されました。

シンポジウム前半は創設期理事を対象としたインタビュー結果の報告が主になされ、後半に本学会および特別ニーズ教育研究のあり方や展望に関する指定討論、そしてフロアとの討議が展開されました。本学会が設立当初から様々な領域を横断する形で教育学を基軸とした議論を志向してきたことが改めて示された中で、本学会としての特別ニーズ教育学の位置づけと今後の構築の方向性が大きな論点の



その後議論も冷めやらぬ中懇親会（長崎市・「寶來軒」）となりまして、35名の参加者のもと、血うどんを始め長崎の中華料理をご堪能いただきながらにぎやかなひとときとなりました。

20日は課題研究Ⅰ「貧困と特別ニーズ教育Ⅲ」・課題研究Ⅱ「マイノリティの視点からみた特別ニーズ教育」と、第8期理事会にて継続して取り組んできた課題についてあらためて議論を深めたあと、総会・学会奨励賞授与式が執り行われました。今総会では初







最後に 20 日の午後は自由研究発表(26 件)と、若手チャレンジ研究会企画である卒論・修論・博論等デザイン検討会(6 件)も開催され、様々な研究課題から議論がなされました。

最後となりますが、本大会ご参加の皆様、長崎大学学生スタッフ、大学関係者の皆様に心より感謝申し上げます。次回の第 26 回研究大会は日本福祉大学での開催となります。皆様にまたお会いして、議論をさらに続けていけますことを、心より願っております。(文責:石川衣紀)

#### 日本特別ニーズ教育学会第 25 回研究大会実行委員会

実行委員長 平田 勝政(長崎ウエスレヤン大学現代社会学部)

副実行委員長 鈴木 保巳(長崎大学教育学部)

事務局員 石川 衣紀(長崎大学教育学部)